

曼茶羅に寄せて完

新年を無事にお迎えになられたことかと思えます。今年も寺報ともどもによりしくお願ひします。今月も先月、先月に続き青木一義様のネパール紀行を掲載します。

ネパール 紀行
一九九一・六・二二
青木一義

私は仏教の門徒であっても、仏教の信者ではない。その私が何故大蔵經典に出合つて、こんなにも感動したのであるうか。

一つには經典は古代の文化が花開いた時代の遺産だと思つたこと。

一つには慧海は「チベットは仏教国なり。チベットより仏教を除きせば、ただ荒廃せる国土と、蒙昧なる蛮人と、あるのみ。仏教の社会に及ぼ

せる勢力の偉大なると、その古代における発達とは、個人の敬虔に値するものなきに非ず」と言っているが、ネパールの人たちの心優しさと、信仰厚き人たちの手によってこそ、古代の經典が受け継がれてきたのを見届けたようで、まさに仏教の社会に及ぼす力の偉大さを見た思いがしたからであらう。



▲ いただいた曼茶羅

このようにして私が思いがけぬところで幻の經典に出合つたのは、お釈迦さまの引き合

わせだと思ひ有難かつた。これは独り占めにすることお寺に曼茶羅を献上すること

私に經典が大変興味を示したので、トウラチャンがもう一軒別の家の経蔵に、その日の夕方一人案内してくれた。そこには仏像もたくさんあつて、またありがたい見学をさせてもらった。

そういう訳で、曼茶羅をネパールみやげに持ち帰ること

になつたが、曼茶羅はカトマンズのダーバスクエア（旧王宮前広場）のみやげ物屋が並んでいる所に行けば、ずらりとタンカ（仏画）店が軒を並べていて、タンカ（仏画）もピンからキリまである。店に入つて見ても、たくさんあれば目うつりがして品定めもできない。良い店を知っている人に一緒に行つてもらつたが、初めて見る者にとっては珍しいが先に立って少し悪しなどわからない。二度足を運んだが、気に入る仏画に巡り合えなかつた。

結局三度目は手書きの一品品を持っていく店を知っていた矢崎さんとチヨンビ、シエルパが山から帰ってくるのを待つて、四月二十三日、彼らに案内してもらい、ダーバスクエアのタンカ（仏画）店でようやくこの曼茶羅を求めることができた次第である。（完）

一九九一年六月二十二日
青木一義 記す

法語の世界

〈原 文〉

法敬坊申され候ふ 仏法をかたるに 志の人をまにおきて
語り候ば 力がありて 申しよきよし申され候ふ

（『蓮如上人御一代記聞書 二百八十七』）

〈現代語訳〉

法敬坊が「仏法の話をするとき、み教えを心から求めている人を前にして話ると、力が入って話しやすい」といわれました。

迎春

念仏相続を喜ぶ
2023年で
ありますように！
今年も
よろしくお願ひします
2023年 新春
金光寺役員一同
金光寺寺内一同

